

石川県志賀町に漂着したオウギハクジラ

著者	田島 木綿子, 谷田部 明子, 角田 恒雄, 台蔵 正一, 南部 久男, 山田 格
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	30
ページ	85-87
発行年	2007-02-25
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=849

短 報

石川県志賀町に漂着したオウギハクジラ*

田島木綿子¹⁾, 谷田部明子²⁾, 角田恒雄¹⁾,
台藏正一³⁾, 南部久男⁴⁾, 山田格¹⁾

¹⁾ 国立科学博物館動物研究部, 〒169-0073東京都新宿区百人町 3-23-1. ²⁾ 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科. ³⁾ 日本海セトロロジー研究会, 〒939-1362富山県砺波市太郎丸80番地. ⁴⁾ 富山市科学文化センター, 〒939-8084富山県富山市西中野町1-8-31.

Note on Stejneger's beaked whale stranded at the coast of Shika-machi, Ishikawa Prefecture, Sea of Japan.

Yuko Tajima¹⁾, Akiko Yatabe²⁾, Tsuneo Kakuda¹⁾,
Masakazu Daizo³⁾, Hisao Nambu⁴⁾ and
Tadasu K. Yamada¹⁾

¹⁾ National Science Museum, Department of Zoology; 3-23-1, Hyakunin-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0073, Japan. ²⁾ Tokyo University of Marine Science and Technology, Course of Applied Marine Environmental Studies. ³⁾ The Cetology Study Group of Japan; 835, Taromaru, Tonami-shi, Toyama 939-1362, Japan. ⁴⁾ Toyama Science Museum; 1-8-31, Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

オウギハクジラ *Mesoplodon stejnegeri* は、アカボウクジラ科 (Ziphiidae) に属し、北太平洋の温帯から亜寒帯に分布する体長約5mのクジラで、日本海側では鳥取から稚内までに漂着記録がある (山田, 1996)。2005年4月に石川県志賀町にオウギハクジラ (メス, 体長502cm) が漂着し、調査を行ったので、計測値や剖検結果などの概要を報告する。

I 漂着

漂着日: 2005年4月25日

場 所: 石川県志賀町百浦 (図1, 2, 3)

経 緯: 4月25日, 志賀町役場より, のとじま臨海

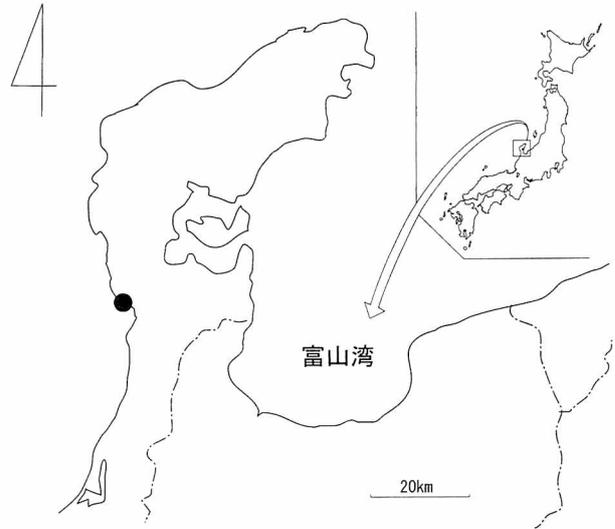


図1 漂着場所 (石川県志賀町百浦)



図2 漂着場所の風景 (オウギハクジラは左上)

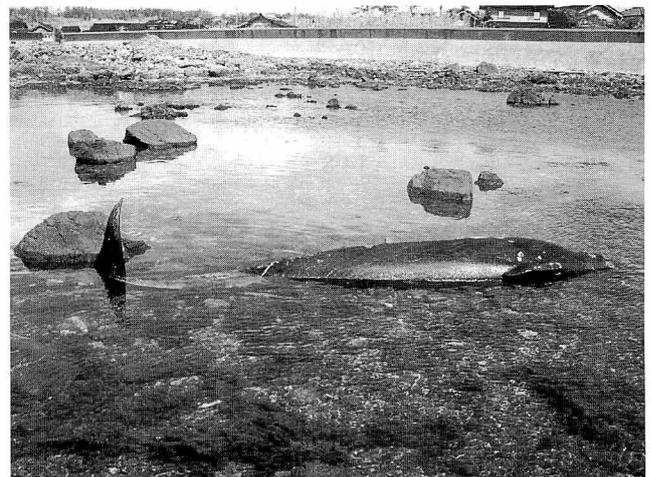


図3 漂着したオウギハクジラ

* 富山市科学文化センター研究業績第338号

公園水族館にクジラが漂着している旨連絡があり、
27日に現地調査を行った。

現地調査：4月27日、国立科学博物館（山田格、角田恒雄、田島木綿子）、谷田部明子、台蔵正一、南部久男。

備考：全身骨格は富山市科学文化センターに保管されている。

II 計測及び剖検

1. 計測値 (cm)

体長	502
上顎先端－口角	29
上顎先端－目	50
上顎先端－噴気孔	46
上顎先端－耳	63
上顎先端－胸びれ前	92
上顎先端－背びれ前	309
上顎先端－背びれ先端	348
上顎先端－へそ	230
上顎先端－生殖孔	339
上顎先端－肛門	359
左胸びれ前縁長	64
左胸びれ後縁長	34
胸びれ基底長	37
胸びれ最大幅	16.5
背びれ基底長	44
背びれ前縁長	41
背びれ後縁長	23.5
背びれ高	22.5
背びれ最大高	23.5
尾びれ前縁長 (右)	82.3
尾びれ後縁長 (右)	61.5
尾びれ基底長 (左)	49
尾柄幅	14.8
胴周	
胸びれ前	174
へそ	228
生殖孔	176
肛門	153

2. 外貌所見

外形；腹側を中心に中程度膨張する。体表には全体に死後岩礁などで形成されたと思われる擦過傷が多数ある。表皮は一部乾燥する。上下顎先端および左胸びれ骨格の一部は碎けており、表皮も剥離し、出血を認める。鳥類または食肉類によると思

われる食害あり。

外傷；生前形成されたと思われる白色平行な二本線が数カ所認められる（同種オスの歯による可能性がある）。

脂皮；厚く、弾力性に欠ける。頭頸部を中心にうっ血を認める。

筋肉；暗赤色を呈し、弾力性に乏しい。

乳腺；断面赤桃色を呈す。径1cm以下の乳管を認める（非常に発達しているとはいえない）。

3. 内臓所見

死後変化の進行が高度な個体のため、可能な限りの所見にとどめる。

胸腔；陰圧。各臓器の位置関係は正常。液体貯留なし。

腹腔；臓器の位置関係は正常。液体貯留なし。

<消化器>

肝臓；表面及び剖面ともに暗赤色調強。外形を留めるも、剖面は泥状（死後変化）。寄生虫は認められず。

食道；白色角化上皮が裏打ちするが、容易に剥離する。潰瘍などの著変は認められず。

胃（翌日観察）：

主胃；内容物はロープ1本（長さ15cm）、ビニール片1枚、無脊椎動物の身体由来と思われる破片2個（径5cm大に至り、表面には数個の小孔を認める）、および多量の赤褐色液体を認める。粘膜には大小不同の気泡形成を確認し、黄緑色を呈す（死後変化）。

幽門胃；内容物は主胃と同様の液体のみ。2つの部屋より構成されており、前室粘膜は網目状、後室粘膜は縦軸に平行ヒダを呈す。後室は死後変化進行高度（泡沫状となる）。弾力性極めて乏しい。山吹色を呈す。

腸管；全体に高度に泡沫状（スポンジ状、死後変化）。黄桃色を呈す。

<泌尿生殖器>

腎臓；左右ともに表面及び剖面ともに暗赤色調強。母指頭大に至る黄白色結節（寄生虫結節）を数カ所認める（比較的少ない）。尿管内には、*Crassicauda* sp.線虫虫体が多数存在する。どれも腎小葉内に頭部を食い込ませている。

膀胱；尿貯留は認められず。粘膜は桃白色を呈し、弾力性あり。著変認められず。

卵巣；左；退縮中の黄体及び白体と思われる隆起部を数カ所認める。右；表面平滑。

子宮・膣；頸部に白色糊状粘液付着する。角部には左右差認められず。粘膜は黄白色を呈し、赤色点状部散在する。

<循環・呼吸器>

心臓；黄赤色非粘稠性心嚢水約20cc貯留する。外形、血管走行及び各弁に著変認められず。

肺；左右葉ともに表面および断面ともに暗赤色調強。含気性は著しく乏しい。気道内には白色泡沫物および赤色液体多量に貯留。

<内分泌器>

甲状腺；気管腹側に左右1対存在する。暗赤色調強。高度脆弱。著変なし。

<リンパ器>

脾臓；細長いクリームパン状外形を呈す（解剖学的所見）。表・断面ともに暗赤色。外形を留めるも断面は泥状（死後変化）。

胸腺；死後変化が進行し、有無の確認できず。

腸間膜リンパ節；径2cm大。腫大なし。断面黄白色を呈す。

<頭部>

耳骨周囲；軟部組織を含め広範囲に出血を認める。

4. 総合所見

死後変化の進行が高度のため、詳細な病理学的調査は実施できなかった。しかし、観察した限りでは、個体を死に追いやるような重度な疾病は認められず、漂着及び死因の特定はできなかった。気道内に多量の白色粉末物ならびに赤色液体がみとめられたため、死戦期には急性の呼吸器不全（うっ血性肺水腫または海水誤飲による）を起こした可能性が高い。また、生殖腺の観察により、性的に成熟した個体である。

III 考察

1988年日本海側のクジラ研究者などを中心に発足した「日本セトロロジー研究会(現)」では、オウギハクジラは研究会の研究対象として中心的な種の一つとなっている。晩秋から初夏にかけて日本海側全体では年間20例近くの漂着を見ることもある。詳細な病理検索が行われるようになったのは1995年以降である。進藤ら(1995)とTajima et al.(2007)は死因と関連の高いアミロイドーシス3例の報告をしているが、一般に顕著な病変がみられず、死亡直前に摂取した胃内容物が見られない個体が多く(田島ら, 2001a, b; 2002; 2003; 2004), Honma(1996)は幼若個体と老齢個体が冬期の荒天の影響で死亡する可能

性を示唆している。いずれにせよ、死後の経過時間の短い個体についてさらに詳細な病理解剖を進め、データを蓄積し、さらなる考察を行う必要がある。

謝 辞

調査にご協力いただきました志賀町役場、のとじま臨海公園水族館、作図をしていただきました志波友子氏に厚く御礼申し上げます。

文 献

- Honma, Y., 1994. Histological studies on the ovaries of beaked whales, *Mesoplodon stejnegeri*, stranded on the coast of Niigata District, Sea of Japan. Rep. Sado Mar. Biol. Stat., Niigata Univ., 24: 1-10.
- 進藤順治, 大和淳, 1995. 新潟県上越市に漂着したオウギハクジラ *Mesoplodon stejnegeri* の病理所見. 日本海セトロロジー研究 日本海の鯨たち, 5: 27-29.
- Tajima Y, Shimada A, Yamada T. K, Cowan DF., 2007 (in press). Amyloidosis in two Stejneger's beaked whales (*Mesoplodon stejnegeri*) stranded at the sea of Japan. J. Zoo. Wild. Med.
- 田島木綿子, 関谷伸一, 栗原望, 南部久男, 真柄真実, 新井上巳, 梅谷綾子, 山田格, 2004. 日本海沿岸を中心とした漂着海棲哺乳類に関する肉眼病理学的調査報告-2003.05~2004.04-. 第15回日本海セトロロジー研究会. 要旨集.
- 田島木綿子, 新井上巳, 山田 格, 2003. 日本海沿岸を中心に漂着海棲哺乳類の肉眼病理学的報告-2002.06~2003.04-. 第14回日本海セトロロジー研究会. 要旨集.
- 田島木綿子, 新井上巳, 林 良博, 山田 格, 2002. 漂着海棲哺乳類に関する肉眼病理学調査報告-2001年 5月~2002年 5月-. 日本海セトロロジー研究会 第13回大会. 要旨集.
- 田島木綿子, 2001a. 日本海沿岸の漂着海棲哺乳類調査報告-1999.1.1~2000.4.30-. Nihonkai Cetology. 11: 1-5.
- 田島木綿子, 林 良博, 2001b. 2000年5月以降の日本海沿岸各地に漂着した海棲哺乳類に関する肉眼病理学的調査報告. 第12回日本海セトロロジー研究会. 要旨集.
- 山田格, 1996. アカボウクジラとオウギハクジラ類. pp. 56-59. 日本動物大百科2. 哺乳類II. 平凡社.